

生物多様性への取り組み

●鉄道林の整備

JR東日本が事業活動を行っている約7,500kmの沿線には、鉄道を雪や風などから守るために設けられた鉄道林をはじめとする豊かな自然があります。樹木をはじめとした生物の恵みに感謝し、また豊かな自然を守り育てていくことにも、引き続き取り組んでいきます。

鉄道林とは、樹木の力を利用してふぶきや土砂崩れなどの自然災害から線路を守り、列車の安全・安定運行を確保するために設置された樹林です。最初の鉄道林は、明治26年にふぶきによる吹きだまりから線路を守るために設けられ、その後、強風からの線路防護、降雨時の土砂崩壊や冬季間のなだれの予防、海岸部の飛砂の防止などさまざまな目的で設置されてきました。現在、JR東日本では、600万本、約4,200haの鉄道林を保有しており、JR東日本で排出するCO₂の0.8%にあたる1.7万トンを吸収するなど、沿線の環境保全にも貢献しています。

2008年からは、線路の防災と沿線の環境保全の両立を目指して鉄道林のあり方を根本的に見直し、更新時期を迎えた樹木を約20年かけて植え替える「新しい鉄道林」プロジェクトをスタートしました。



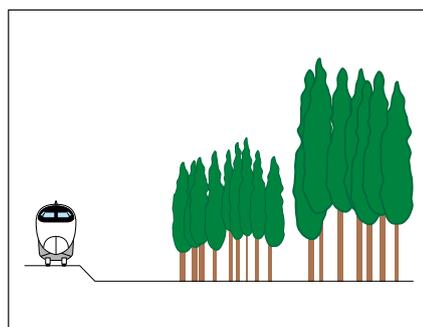
奥羽線 関根1号林(ふぶき防止林)



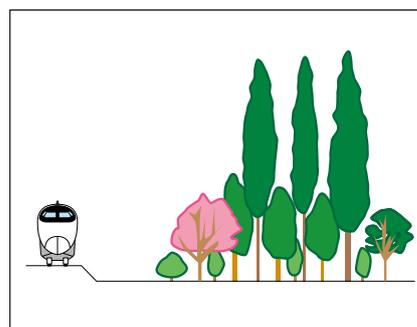
米坂線 手ノ子6号林(なだれ防止林)

●鉄道林——単一樹種から複数樹種へ

これまで鉄道林は、防災の機能に加えて、木材生産による収益も目的とした林業としての機能もあわせもっており、主としてスギなどの単一の樹種が植えられていました。しかし、最近では、国産木材の需要低下などにより、現状にそぐわなくなってきました。そこで、今後の植え替えでは、その土地風土にあった樹種を混植させることで、多様性があり生態系として強い鉄道林を形成していきます。



従来の鉄道林(スギなどの単一樹種)



新しい鉄道林(複数樹種を混植)

- 生物多様性への取り組み -

●「新しい鉄道林」の植樹

信越本線柿崎～米山間の柿崎1号林において、2008年9月27日、「新しい鉄道林」の植樹式を行いました。この鉄道林は、日本海からの強風による砂の飛来から線路を守るマツ林でしたが、冬季間の強い潮風や、マツ食い虫の被害を受けていました。そこで、生態学の専門家である宮脇昭横浜国立大学名誉教授にご指導いただき、その土地本来の樹種(潜在自然植生)での植樹を行いました。植樹式には、地元の皆さまや企画旅行のお客さまなど約260名の方にご参加いただき、鉄道林の更新約40種、1.2万本のうち2千本の植樹を行いました。



「新しい鉄道林」の植樹式(柿崎1号林)

●鉄道沿線からの森づくり

1992年から「鉄道沿線からの森づくり」として鉄道沿線での植樹活動を行っています。2008年度までに約4万人が参加し、約28万本の植樹を行いました。現在は鉄道沿線の枠を越え、地域との連携による植樹も行っています。

●安達太良ふるさとの森づくり

2004年から福島県安達太良地域の国有林で、JR東日本グループ全体の取り組みとして「安達太良ふるさとの森づくり」を行っています。これは、自然に近いかたちで密植・混植し、自然淘汰を経ながら「ふるさとの森」を作り上げる取り組みです。2009年5月に実施した「安達太良ふるさとの森づくり」には約1,800名の方にご参加いただき、1.7万本の苗木を植樹しました。



安達太良ふるさとの森づくり

●秋田下浜海岸植樹

JR東日本が所有する秋田市下浜海岸の鉄道林(羽越本線沿線)において、マツ食い虫の被害を受けた松林の再生を目的に、JR東日本秋田支社と(財)イオン環境財団の共催で植樹活動を行いました。約880名の方にご参加いただき、約1万本の苗を植樹しました。



(財)イオン環境財団と共催した「秋田下浜海岸植樹」